

### 「施工業者様へのお願い」

弊社では、お施主様へのお願い事項や注意事項などの重要な内容を記載した「取扱説明書」を添付しております。

必ずお施主様に手渡していただくようお願いいたします。



取扱説明書は弊社HP <https://www.daiken.jp/> よりダウンロードも可能です。

\*所定の性能を得るため、施工説明書および認定書の別添の内容に準拠し施工してください。

軒準耐火構造の大臣認定書は弊社ホームページからダウンロードできます。

トップページから「D-Cata」に進んでください。

URL: <https://www.daiken.co.jp>

## 目次

•必ずお守りいただきたいこと	・・・P1	•準耐火構造としない場合:木製野縁	・・・P11~14
•製品仕様・物性表	・・・P2	1. 下地の確認	・・・P11
•設計および施工上の注意点	・・・P3	2. 割付け	・・・P11
•材料表	・・・P4	3-1. 軒天材の留付け	・・・P12~13
•準耐火構造とする場合:木製野縁	・・・P5~10	【ピンネイル+ダイライト軒天羽目板専用接着剤】	
1. 下地の確認	・・・P5	3-2 軒天材の留付け	・・・P14
2. 割付け	・・・P5	【リングネイル・カラービス】	
3-1. 軒天材の留付け	・・・P6~7	4. コーキング施工	・・・P15
【ピンネイル+ダイライト軒天羽目板専用接着剤】		5. 補修方法	・・・P15
3-2 軒天材の留付け	・・・P8	6. 清掃方法	・・・P15
【リングネイル・カラービス】		•品番表 ダイライト軒天羽目板・補修部材・施工部材	・・・P16
3-3. 出隅部	・・・P9	•準耐火構造としない場合:鋼製下地	・・・P17
3-4. 通気見切り金物BM-2	・・・P10	•ダイライト軒天施工部材	・・・P18
		•取扱説明書	・・・P19

## 警告表示の種類と内容

- 準耐火構造認定は木造下地専用です。鋼製下地では準耐火構造認定が使用できません。  
所定の性能を得るため、またトラブルなく確実に施工していただくため、施工方法をよく読んでください。

### ■ 危険の定義とシンボルマーク

	<b>警告</b>	誤った取扱いにより死亡や重傷などに結びつく可能性のあるもの
	<b>注意</b>	誤った取扱いにより傷害または家屋、家財などの損害に結びつくもの

### ■ 警告図記号について

本文中で使われている図記号の意味は、次のとおりです。

	「してはいけないこと」を示します。
	「注意すること」を示します。
	「必ず行なっていただくこと」を示します。

# ダイライト軒天羽目板

必ずお守りいただきたいこと

	<b>警告</b>	誤った取扱いにより死亡や重傷などに結びつく 可能性のあるもの
---	-----------	-----------------------------------

**【施工上の警告】**

- 高所で作業する場合は、しっかりとした足場を組み、通行部分の邪魔なものを片付けてから作業してください。
- 高所で作業する場合は、必ず落下防止措置を取ってから作業してください。
- 物干しフック、防犯カメラ、照明器具などを取り付ける場合は、野縁などの下地に取り付けてください。野縁ではなくダイライト軒天羽目板に固定した場合、落下する危険性があります。

	<b>注意</b>	誤った取扱いにより傷害または家屋、家財などの損害に 結びつくもの
---	-----------	-------------------------------------

**【運搬・搬入・堆積・在庫に関する注意】**



- リフトを使用する場合は、一山ごとに作業し、ツメで損傷しないように十分注意してください。(ツメで製品を押したり、ひきずらないようにしてください。)
- 手おろしする場合は、欠け防止のため取扱いに十分注意して2名以上でおこなってください。
- 製品を積置きする場合は、「ダイライト軒天羽目板」の変形を防ぐため、直接地面と接しないように台木の上にさらに敷板をのせ平置きしてください。(台木は、高さのそろったものを使用し600mmに1本以上の割合で、均等に4本以上入れてください。) また、雨、直射日光が当たらないようにシート掛けをおこなってください。
- 表面のキズや汚れを防止するために、最上面の板は裏がえしにしてください。
- 開梱して積み置きする場合は、表面にキズや汚れがつかないように、注意してください。
- 原則は屋内に保管し、軒先に置く場合は雨、直射日光が当たらないように必ずシート掛けしてください。
- 1パレットあたり20梱(12枚/梱)とし、パレットは2段積以下としてください。

**【施工に関する注意】**



- 次ページ以降の施工要領を厳守してください。
- SDSのご請求は、弊社営業担当者にお問合せください。

**【廃棄に関する注意】**



- ダイライト軒天羽目板を廃棄するときは、「廃棄物の処理および清掃に関する法律」に従い適正に処理してください。詳細は各自治体にご確認ください。
- SDSのご請求は、弊社営業担当者にお問合せください。

■製品の品質保証について

製品名	保証事項		保証期間		
	保証箇所	保証対象となる不具合現象	起算時期		
ダイライト軒天羽目板	外観上の著しい*1変形が生じないこと	基材	変形(垂れ)	施工完了後	2年

※1:「著しい」の定義 ⇒ この施工説明書に則った施工のもとで、経過時間を考慮し客観的に見て、通常の状態から逸脱している度合いがきわめて大きいことをいいます。

# ダイライト軒天羽目板

## 製品仕様・物性表

### ダイライト軒天羽目板

		ダイライト軒天羽目板
サイズ mm		厚さ12、有効幅151.5×長さ1,820
基材		ダイライト
表面加工・化粧		木目調化粧シート仕上げ
縁加工		長手方向あいじゃくり 短手方向切り放し・糸面取り着色
不燃性(不燃材料)		NM-4133
比重	★	約0.60
重量 kg/枚 (kg/m)	★	約2.0 (7.2)
※ 吸水率 %	★	15以下
※ 厚さ変化率 %	★	10以下
※ 長さ変化率 %	★	0.20以下

★自社測定値であり、数値を保証するものではありません。

※気乾状態→吸水24hrの変化率

## 軒裏準耐火構造(30分)の認定番号

認定番号は、換気部材の有無によって異なります。対応する認定を使用してください。

認定番号	換気部材	留付け方法
QF030RS-0390	換気部材なし	リングネイル・カラービス・
QF030RS-0391	通気見切り金物BM2※	ピンネイル+ダイライト軒天羽目板専用接着剤

※指定の金物以外は、準耐火構造に使用できません

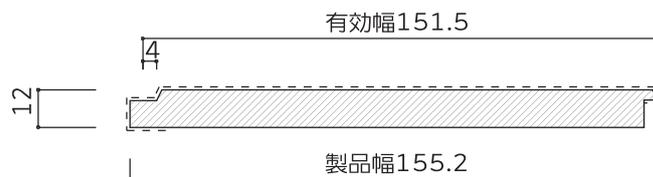
## 製品形状

単位:mm

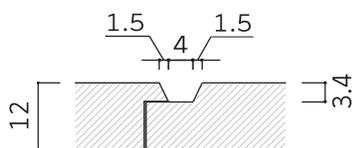
天面



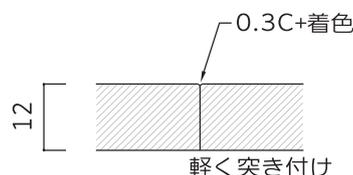
断面



勘合部



短辺継手



# ダイライト軒天羽目板

## 施工上の留意点

### ⚠ 設計および施工上の注意点

- ダイライト軒天羽目板は「軒裏準耐火構造(30分)」の認定を取得しています。  
軒裏準耐火構造(30分)とする場合には、各認定書の材料・寸法・構成を守ってください。
- ダイライト軒天羽目板の準耐火構造認定は木造下地専用です。鋼製下地では準耐火構造認定が使用できません。  
鋼製下地への施工は、別に定める「鋼製下地での施工方法」を参照してください。
- 雨水などが伝わったり、高温や多湿などの環境にさらされると、シミや汚れ、カビの発生、変質または製品の脱落を招く恐れがあります。

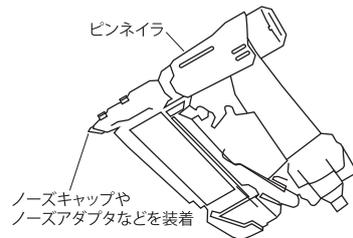
⊘ 以下の部位、箇所には施工しないでください。

- 直接雨などの水がかかる部位
- 氷雪・ツララなどがダイライト軒天羽目板まで廻り込む恐れがある箇所
- 高温にさらされる部位・常時多湿になる部位などの特殊な環境にさらされる部位
- 軒天井ボード以外(破風板・鼻隠し・外壁・外壁に類する部分・ベランダ床等)

- 化粧面を汚したり、キズをつけないように注意してください。

❗ カットの際には防塵マスクを着用してください。また、カットの際に出る粉塵等が肌に付き、かゆくなる  
ことが、まれにありますので長袖の服を着用してください。万一かゆくなった場合は、かかずに水で洗い  
流してください。

- 上向きで作業する場合は、目にごみが入らないように保護メガネを着用してください。
- カラービスで施工する際は、スクリュードライバやボードドライバを使用してください。  
インパクトドライバで施工すると表面シートが破れて仕上がりが悪くなる場合があります。
- **【接着剤+ピンネイル】での施工について、ピンネイルで施工する際は、先端にノーズキャップや  
ノーズアダプタなどを使用してください。ノーズキャップ・ノーズアダプタがない状態で施工  
すると、表面シートの破れや打痕により、仕上がりが悪くなる場合があります。**
- ダイライト軒天羽目板の長辺を切り落とす場合は、施工する前に面取り・補修をおこなってください。
- 表面にキズを付けないよう、表面を市販のマスキングテープなどで保護してから面取りしてください。  
現場の環境によっては「ラスマーク」が発生する可能性があります。



#### ■使用工具一覧

- |             |               |              |
|-------------|---------------|--------------|
| • ピンネイル     | • 金づち         | • インパクトドライバー |
| • スクリュードライバ | • 十字ビット(2番)   | • ドライバー      |
| • 防塵フード付き丸鋸 | • 鋸刃(超硬チップソー) | • 手のこ        |
| • 巻尺        | • さしがね        | • コーキングガン    |
| • ボードかん     | • 面取りかん       | • パテ用ヘラ      |

#### ■使用禁止工具

- 墨つぼ
- チョークライン

# ダイライト軒天羽目板

## 施工手順

### 【準耐火構造】 木下地の場合



- ダイライト軒天羽目板は「軒裏準耐火構造(30分)」の国土交通大臣認定を受けています。認定を使用して準耐火構造にする場合は、認定書も合わせて必ずご確認ください。認定書の写しはホームページからダウンロードできます。トップページから「D-Cata」に進んでください。URL <https://www.daiken.jp/>

材料表

※本表によらない場合でも、各認定書別添の内容は遵守してください。

軒裏30分準耐火構造		QF030RS-0390	QF030RS-0391
換気部材		なし	通気見切り金物BM2(発泡剤あり) (日本化学産業様) 換気部材詳細はメーカーにお問合せください。
軒の出		55~2000mm	120~2000mm
軒形状		勾配軒/水平軒(地面と平行)	勾配軒/水平軒(地面と平行)
外壁との取り合い部		軒天材勝ち/外壁勝ち	軒天材勝ち/外壁勝ち
軒天材		ダイライト軒天羽目板 ※ダイライト軒天30、ダイライト軒天45は使用できません。	
	留付け	①連結リングネイル(φ2.2×L40mm、頭径5mm、SUS304) ②木下地用カラービス(φ3.8×L41mm、ラッパ頭、SUS410) ・留付間隔:軒の出方向 200mm以下 ・軒の幅方向 製品幅に対し2本 ③ダイライト軒天羽目板専用接着剤 +ピンネイル <sup>※</sup> (φ0.6×L35mm以上) ・留付本数:2本/箇所 ・留付間隔:軒の出方向 200mm以下 軒の幅方向 製品幅に対し2箇所 ※ピンネイル:現場調達	
	目地部材	H型ジョイナー 材質:鋼製またはステンレス鋼製 ※アルミニウム製は使用できません	
野縁	材質	以下の日本農林規格の品質を満足する木材 製材、単板積層材、集成材、枠組壁工法構造用製材、枠組壁工法縦継ぎ材	
	寸法	30×30mm以上(縦継ぎ部:30×60以上または2本組)	
	間隔	200mm以下	
	留付け	φ2.75×L50mm以上のくぎまたはねじ くぎ/ねじの留付け間隔:455mm以下	
野縁受け		野縁を垂木に直接固定しない場合は、野縁受けを設けてください。	
	材質・寸法	野縁と同様	
	間隔	500mm以下	
	留付け	φ2.75×L50mm以上のくぎまたはねじ	
吊木		野縁を垂木に直接留付けない構造で、軒の出500mm以上の場合は、吊木を設けてください。	
	材質・寸法	野縁と同様	
	間隔	軒の幅方向1000mm以下	
通気見切り固定材	材質・寸法	なし	野縁と同様



- 軒天材の留付けについては、留め付け方法、ピッチ等注意して施工してください。



- 補強用吊木の留め付け材については野縁用留め付け材と同じ材料、寸法のものを使用してください。

# ダイライト軒天羽目板

## 施工手順

### 【準耐火構造】 木下地の場合

#### 1. 下地の確認

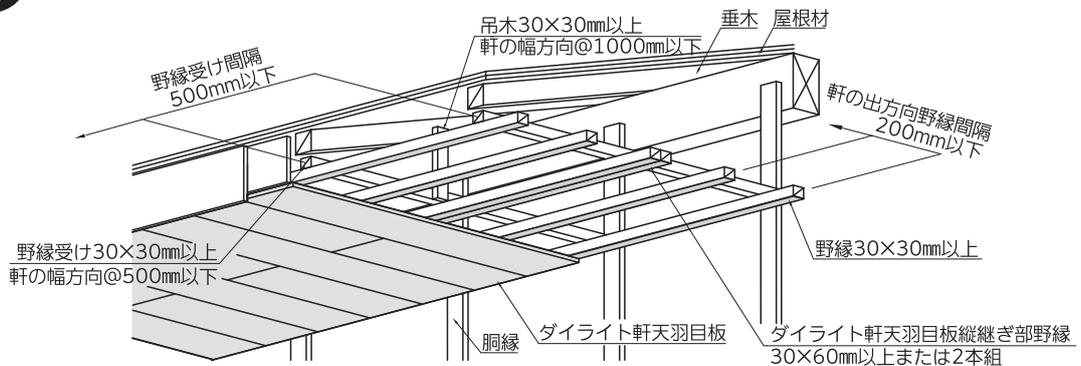
- 野縁(30×30mm以上)を軒の出方向200mm以下の間隔で鼻隠し下地、垂木、野縁受け、柱などに留付けてください。軒天材を軒の出方向に継ぐ場合は、野縁の断面寸法を30×60mm以上または2本組としてください。
- 通気見切り金物BM2を使用する場合は、通気見切り固定材(30×30mm以上)を設置してください。(P10参照) 留付け材はくぎまたはねじ(φ2.75×L50mm以上)で455mm以下の間隔としてください。
- 水平軒とする場合は、野縁受け(30×30mm以上)を軒の幅方向500mm以下の間隔、吊木(30×30mm以上)を軒の幅方向1000mm以下の間隔で設置してください。

#### ■下地材(野縁・野縁受け・吊木)に関する注意事項

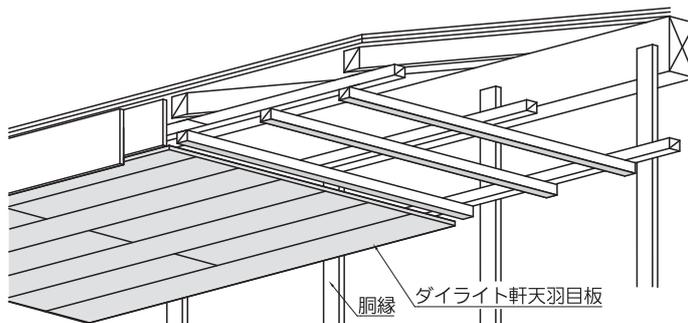
- 下地は波打ち・不陸がないように同一面に仕上げてください。不陸が大きいと施工時にダイライト軒天羽目板が割れる恐れがあります。
- グリーン材(未乾燥材)は使用しないでください。
- 野縁にラワン材のように腐朽しやすく割れやすい材質の樹種を使用した場合、製品の剥落事故などを招く恐れがあるので、絶対に使用しないでください。
- 補強用の吊木、野縁受けには、野縁と同じ品質基準に適合する、断面寸法30×30mm以上の木材を使用してください。
- 留付け材については、野縁留付け用留付け材と同じ材料、寸法のものを使用してください。

#### ■水平軒の野縁組

#### ○ ダイライト軒天羽目板を壁と直行に張る場合



#### ✕ ダイライト軒天羽目板を壁と平行に張る場合(準耐火構造にならない)



#### 2. 割付け

- 本製品は一枚一枚色柄に特有の変化があります。仮並べなどを行い、色柄のバランスをご確認のうえ、施工してください。

# ダイライト軒天羽目板

## 施工手順

### 【準耐火構造】 木下地の場合

#### 3-1. ダイライト軒天羽目板の留付け【接着剤+ピンネイル】の場合



- ・ダイライト軒天羽目板専用接着剤は、直射日光を避け、湿気の少ない冷暗所(5~35℃)で保管してください。
- ・低温(5℃以下)時や雨天時、降雪時および多湿(結露)時の施工は避けてください。また、養生シートなどで施工部への浸水を防止する措置をとってください。硬化不足や接着不良の原因となります。
- ・暴風や強風時または施工後に暴風や強風が予想される場合は、施工を行わないでください。
- ・ピンネイルのみの施工、接着剤のみの施工は行わないでください。軒天材が脱落するおそれがあります。

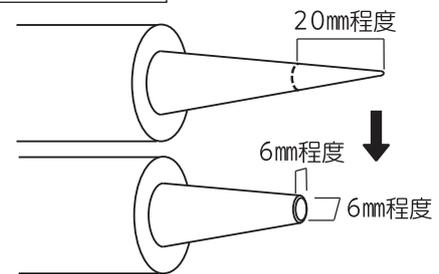
##### ①下地・軒天材の清掃

- ・野縁表面のほこり、汚れ、水などをきれいに取り除き、よく乾燥させてください。

##### ②接着剤のノズルカット・塗布

- ・接着剤のノズル先端20mm程度をカットし、カートリッジガンにて、接着剤を塗布してください。
- ・塗布量は、幅6mm・塗布高5mm程度確保し、野縁側へ塗布してください。

ノズルカット



##### ※標準使用量

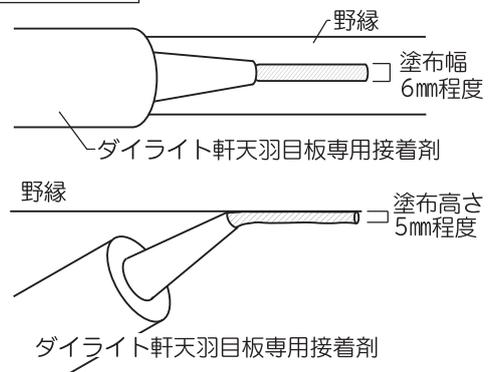
ダイライト軒天羽目板 1梱(12枚,3.3㎡)  
↓  
ダイライト軒天羽目板専用接着剤 約2本  
(P16参照)

##### ※使用条件

施工温度	冬(5℃)	春、秋(20℃)	夏(35℃以上)
張り合わせ可能時間の目安	塗布後 30分以内	塗布後 20分以内	塗布後 15分以内
実用強度の目安	張り合わせ後 24時間以上	張り合わせ後 24時間以上	張り合わせ後 24時間以上
完全硬化時間の目安	6日~7日	4日~5日	2日~3日

※上記に示す数値は、温度、相対湿度、塗布量、接着部材の構成等により変化します。

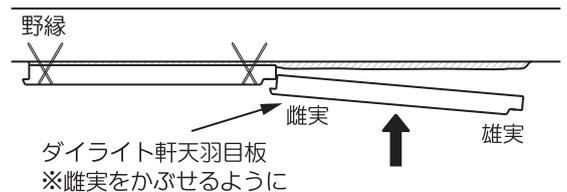
接着剤塗布



- ・必ずダイライト軒天羽目板専用接着剤を使用してください。
- ・接着剤はすべての野縁に塗布してください。

##### ③軒天材の張り付け

- ・接着剤塗布後、ダイライト軒天羽目板の雌実側を先に施工し、**雌実側をかぶせるようにして、位置を合わせながら軽く仮押さえ**してください。
- ・雌実をかぶせず、離れた位置から寄せるように位置合わせをした場合、接着剤が実部分からはみ出し、化粧面が汚れる恐れがあります。
- ・あいじゃくり実には若干調整代があります。数枚施工ごとに位置を確認し、送り量を調整してください。



- ・ダイライト軒天羽目板へ接着剤が付着した場合、布などで接着剤の大部分を取り除いた後、エタノールで拭き取ってください。

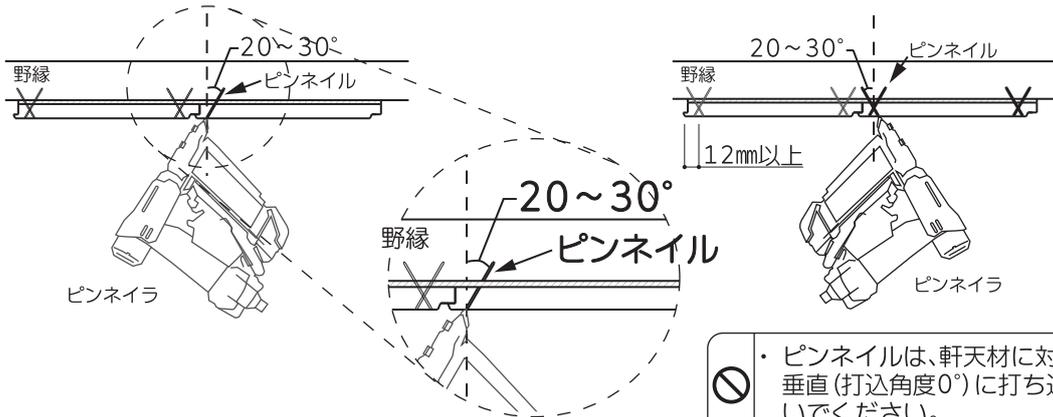
# ダイライト軒天羽目板

## 施工手順

### 【準耐火構造】 木下地の場合

#### ④軒天材の留付け

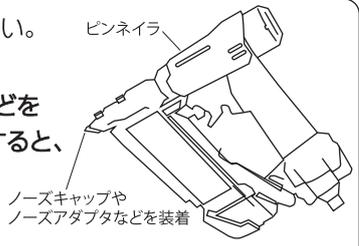
- 位置を確認したら、**接着剤を押しつぶすように、下地位置を手で押さえて、ピンネイル(φ0.6×L35mm以上)**で野縁に留付けてください。
- **ピンネイルは1箇所あたり2本打ちとし、製品幅に対して2箇所**、軒の出方向は野縁に合わせて**200mm以下**として下さい。また、**ピンネイルの打込角度は20~30°**で、**クロス打ち**してください。



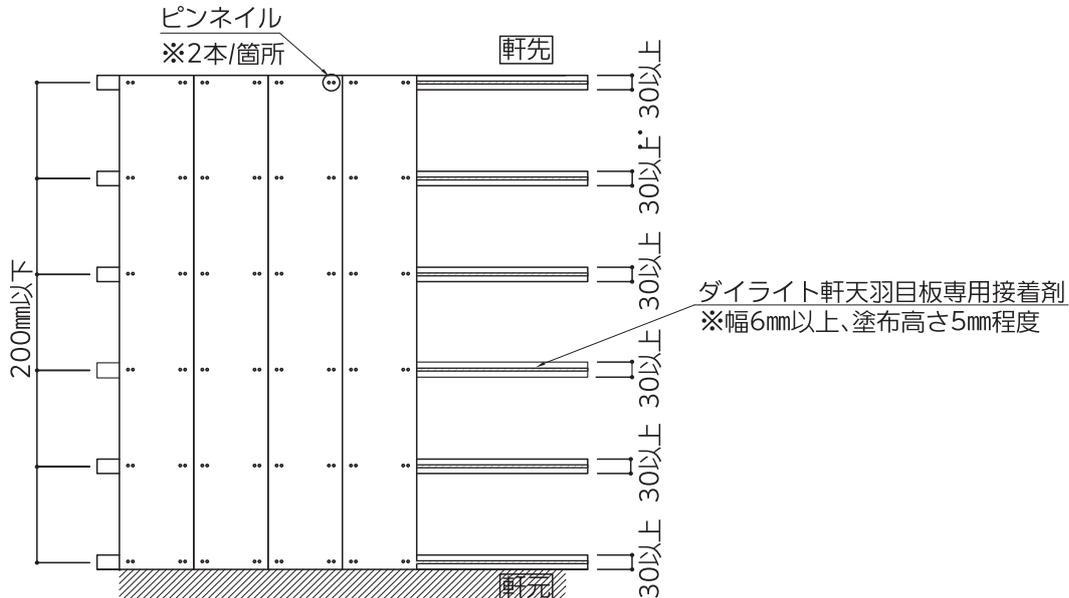
⊘ ピンネイルは、軒天材に対して、垂直(打込角度0°)に打ち込まないでください。

⚠ 留め付けの際は、くぎ頭がめり込みすぎないように注意してください。  
めり込み過ぎた場合は、近くに増し打ちしてください。

! マーキングする場合は、マーキング跡が残らないように工夫してください。施工後に消せない可能性があります。  
ピンネイルで施工する際は、先端にノーズキャップやノーズアダプタなどを使用してください。ノーズキャップ・ノーズアダプタがない状態で施工すると、表面シートの破れや打痕により、仕上がりが悪くなる場合があります。  
留め付けのへりあき寸法は12mm以上確保してください。  
温湿度変化により野縁とダイライト軒天羽目板に寸法変化が起こる可能性があります。収縮側に動く目隙が発生し、伸長側に動くとき突合せがきつくなり波が打っているように見えることがあります。



#### ■留付け図 (接着剤+ピンネイル)



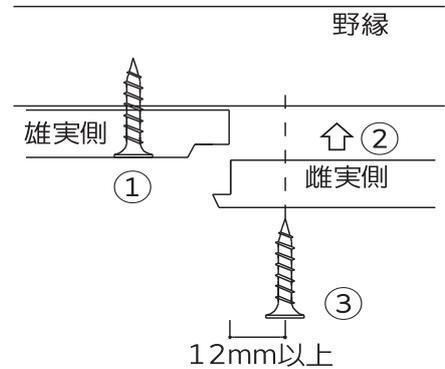
# ダイライト軒天羽目板

## 施工手順

### 【準耐火構造】 木下地の場合

#### 3-2. ダイライト軒天羽目板の留付け【リングネイル・カラービス】の場合

- ダイライト軒天羽目板をリングネイルまたはカラービスで野縁に留付けてください。留付間隔は、製品幅に対し2本、軒の出方向は野縁に合わせて200mm以下としてください。
- 雄実側を先に施工して、雌実をかぶせるようにして張り進めてください。逆の順序で施工すると、ビス打ち時に板が浮き上がり実が破損する恐れがあります。
- あいじゃくり実には若干の調整代があります。数枚施工ごとに位置を確認し、送り量を調整してください。



留付け材	寸法	材質
連結リングネイル (P16参照)	φ2.2×L40mm	SUS304
木下地用カラービス (P16参照)	φ3.8×L41mm	SUS410

⊘ 刃つきのねじ(フレキビス)は使用しないでください。

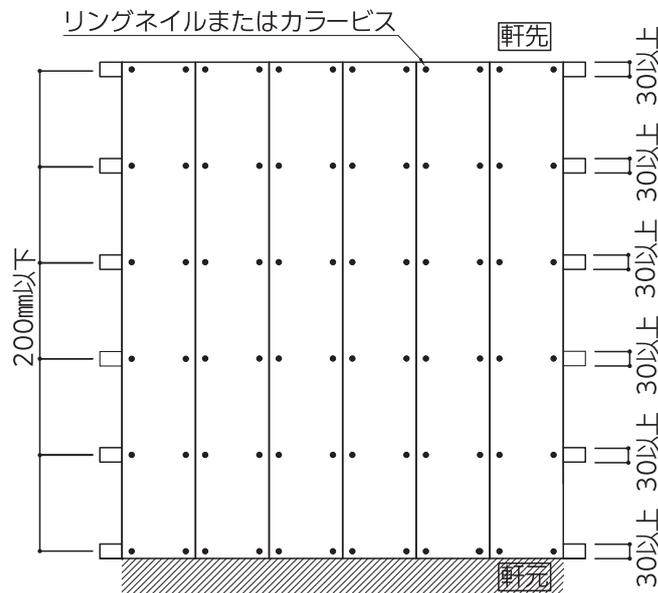
⚠ 留め付けの際は、くぎ頭がめり込みすぎないように注意してください。  
めり込み過ぎた場合は、近くに増し打ちしてください。

⚠ マーキングする場合は、マーキング跡が残らないように工夫してください。施工後に消せない可能性があります。

⚠ 留め付けのへりあき寸法は12mm以上確保してください。ダイライト軒天羽目板が割れる恐れがあります。

温度変化により野縁とダイライト軒天羽目板に寸法変化が起こる可能性があります。収縮側に動く  
と目隙が発生し、伸長側に動くと突合せがきつくなり波が打っているように見えることがあります。

#### ■留付け図 (リングネイル・カラービス)



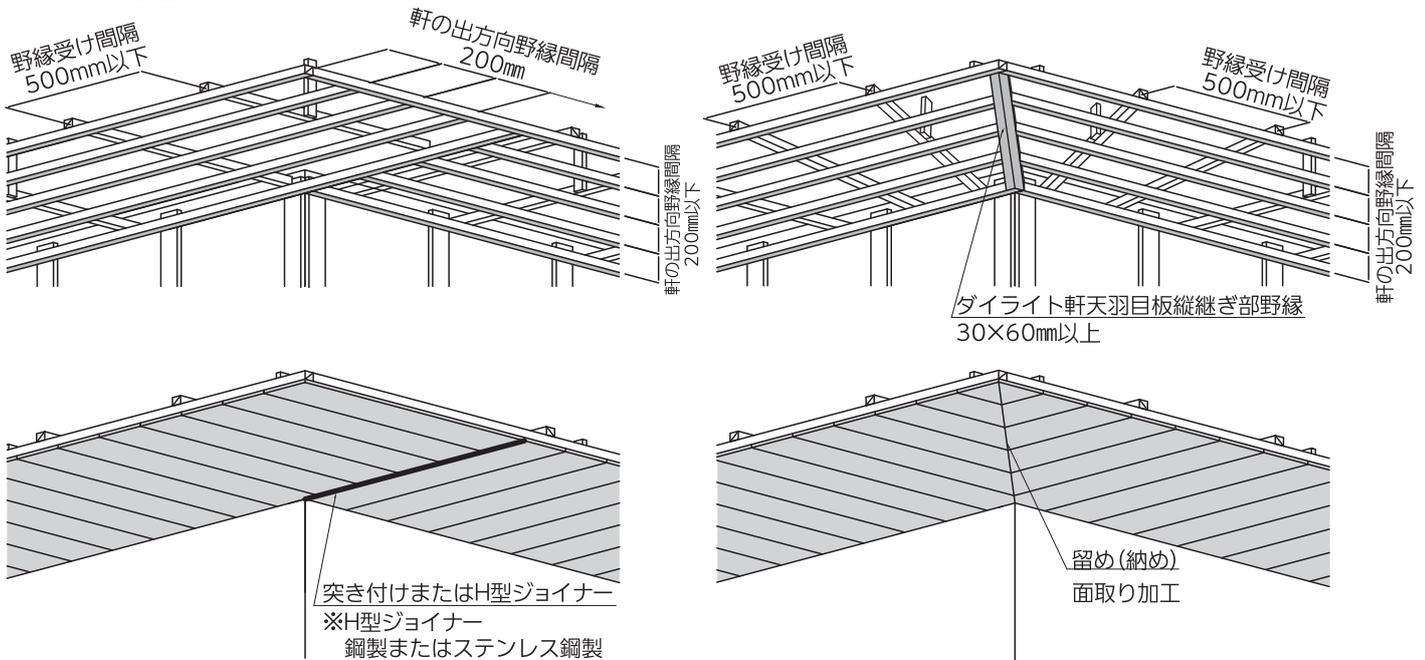
# ダイライト軒天羽目板

## 施工手順

【準耐火構造】 木下地の場合

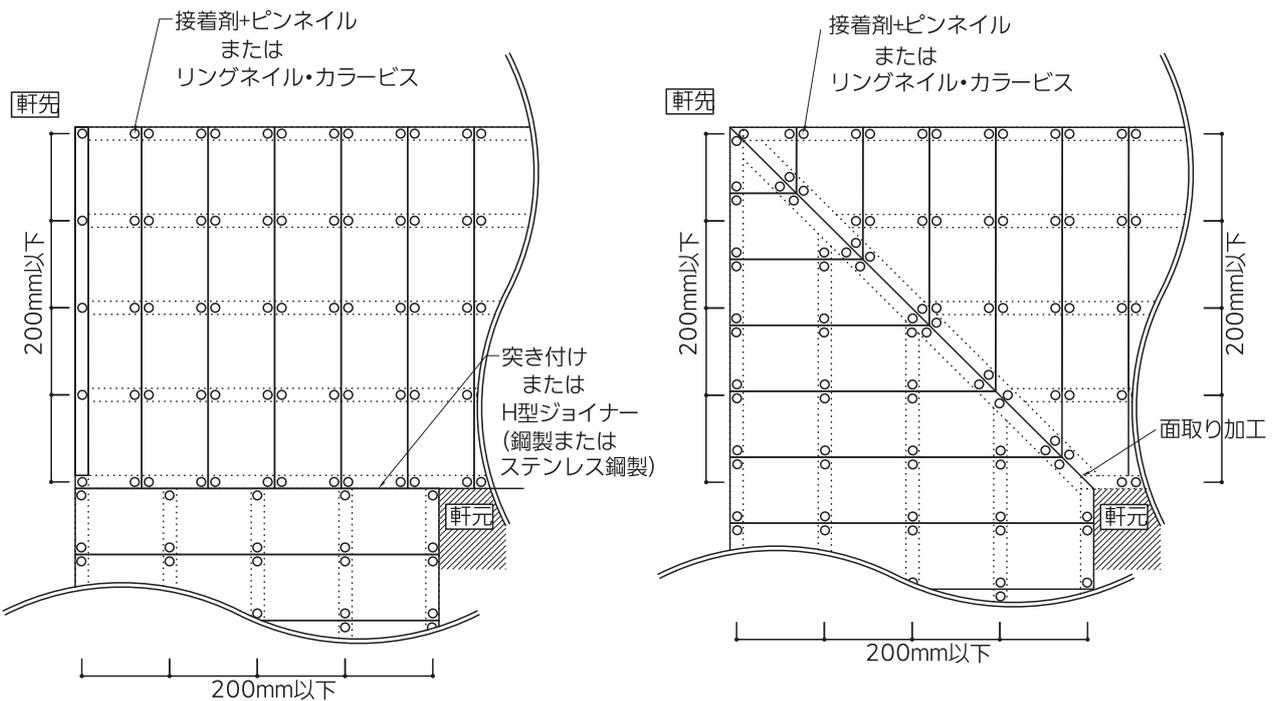
### 4. 出隅部

#### ■野縁組図



・ダイライト軒天施工部材(アルミジョイナー、アルミ見切り)を木製下地へ施工した場合、準耐火構造認定は使用できませんので、ご注意ください。

#### ■留付け図 出隅部(接着剤+ピンネイル・リングネイル・カラービス)



・面取り加工する場合は、面取り部分をタッチアップペンまたは化粧シート用品用塗料で補修してください。

# ダイライト軒天羽目板

## 施工手順

### 【準耐火構造】 木下地の場合

#### 5. 通気見切り金物BM2

- 通気見切り金物BM2 (日本化学産業(株)製) 本体は以下の要領で施工してください。

⚠️ 詳細な金物の施工方法については、通気見切り金物BM2に同梱されている施工説明書を参考にしてください。

⚠️ 準耐火構造 (QF030RS-0391) には通気見切り金物BM2のみが適合します。

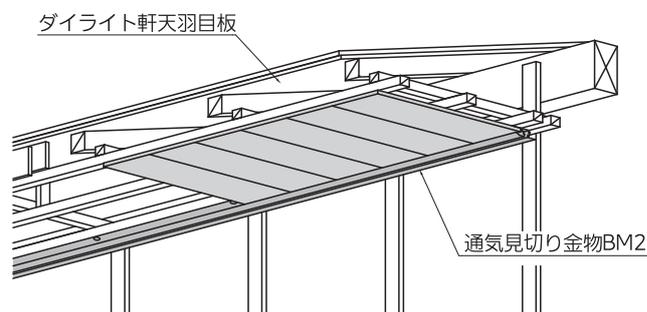
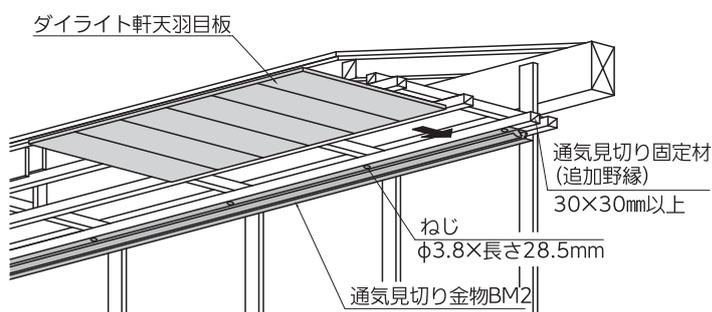
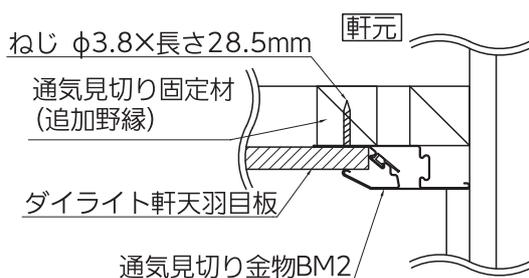
※ 納め部材については日本化学産業(株)のカタログをご覧ください。

- 通気見切り金物BM2を使用する際の外壁との取り付け部は軒天材勝ちで納めてください。
- 通気見切り金物BM2は、専用ねじ(φ3.8×長さ28.5mm)で通気見切り固定材(追加野縁)(30×30以上)に留付けてください。

⚠️ 通気見切り金物BM2を使用する際は、必ず**通気見切り固定材(追加野縁)**を設置してください。  
通気見切り固定材を設置する際は、換気口を塞がないように注意してください。

- 連続して金物を施工する場合や出隅部分、入隅部分等については専用の部材を使用してください。通気見切り金物にダイライト軒天羽目板をしっかりと差し込み、各種指定の留め付け材で留め付けてください。

通気見切り金物BM2	
長さ	1,820mm
換気面積	100cm <sup>2</sup> /m
	182cm <sup>2</sup> /本



# ダイライト軒天羽目板

## 施工手順

### 木下地の場合(準耐火構造にしない)

#### 1. 下地の確認

- 下地は波打ち・不陸がないように同一面に仕上げてください。  
不陸が大きいと施工時にダイライト軒天羽目板が割れる恐れがあります。

・材質 : 乾燥材      ・サイズ : 30×30mm以上      ・間隔 : 303mm以下

- 縦継手は2本使いまたは見付け幅60mm以上の野縁を使用してください。
- 2本使いの場合は継手で目地開き防止のため、2本を緊結してください。

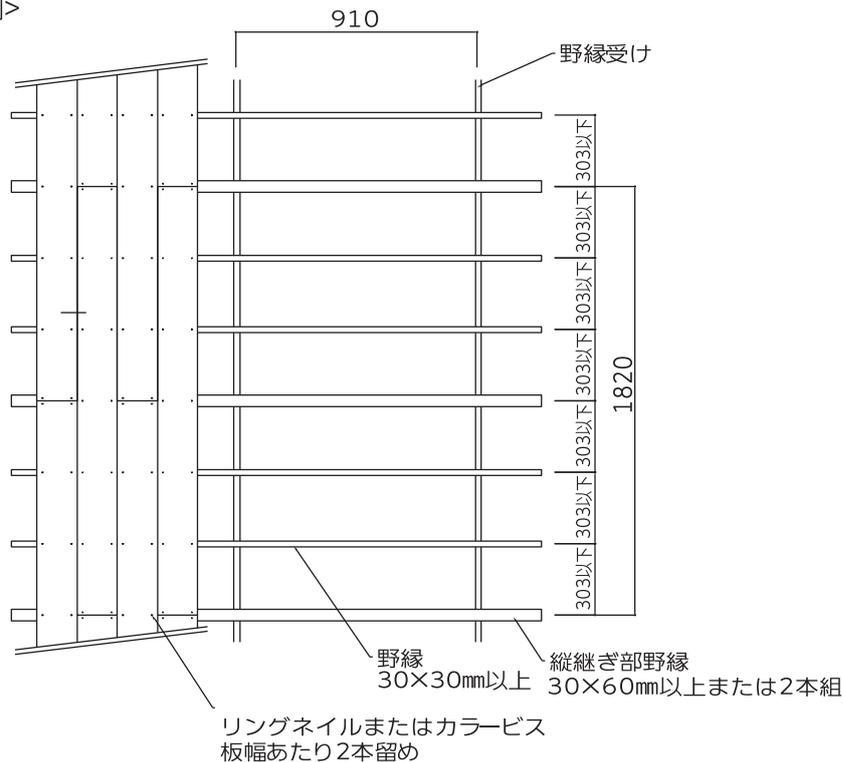
⊘ 未乾燥材は使わないでください。

⚠ 適宜、吊木等を用いてたわみを防いでください。

#### 2. 割付け

- 本製品は一枚一枚色柄に特有の変化があります。仮並べなどを行い、色柄のバランスをご確認のうえ、施工してください。

<割付けの例>



・準耐火構造としない場合、軒天材の張り方向に制限はありません。

#### ■設計耐風圧表(木製野縁)

設計耐風圧 [N/m <sup>2</sup> ]		野縁間隔 [mm]				
		@202	@228	@260	@303	@303<
ピンネイル + ダイライト軒天羽目板専用接着剤		11663	9155	7040	5184	×
板幅 方向に	リングネイル2本留め	2701	2405	2146	1887	×

# ダイライト軒天羽目板

## 施工方法

木下地の場合(準耐火構造にしない)

### 3-1. 軒天材の留付け【接着剤+ピンネイル】の場合

- ダイライト軒天羽目板専用接着剤は、直射日光を避け、湿気の少ない冷暗所(5~35℃)で保管してください。
- 低温(5℃以下)時や雨天時、降雪時および多湿(結露)時の施工は避けてください。**また、養生シートなどで施工部への浸水を防止する措置をとってください。硬化不足や接着不良の原因となります。
- 暴風や強風時または施工後に暴風や強風が予想される場合は、施工を行わないでください。
- ピンネイルのみの施工、接着剤のみの施工は行わないでください。軒天材が脱落するおそれがあります。

#### ①下地・軒天材の清掃

- 野縁表面のほこり、汚れ、水などをきれいに取り除き、よく乾燥させてください。

#### ②接着剤のノズルカット・塗布

- 接着剤のノズル先端**20mm程度**をカットし、カートリッジガンにて、接着剤を塗布してください。
- 塗布量は、幅**6mm**・塗布高**5mm程度**確保し、野縁側へ塗布してください。

##### ※標準使用量

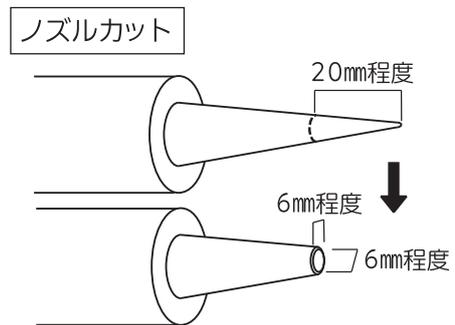
ダイライト軒天羽目板 1梱(12枚,3.3m)

↓  
ダイライト軒天羽目板専用接着剤 約2本  
(P16参照)

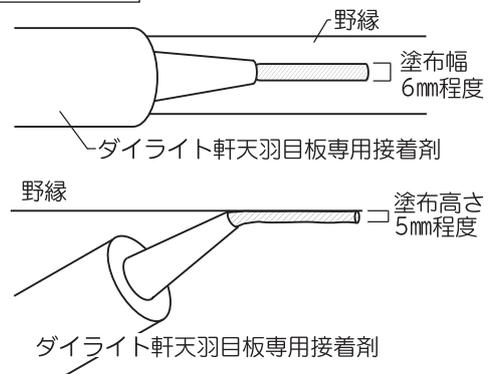
##### ※使用条件

施工温度	冬(5℃)	春、秋(20℃)	夏(35℃以上)
張り合わせ可能時間の目安	塗布後 30分以内	塗布後 20分以内	塗布後 15分以内
実用強度の目安	張り合わせ後 24時間以上	張り合わせ後 24時間以上	張り合わせ後 24時間以上
完全硬化時間の目安	6日~7日	4日~5日	2日~3日

※上記に示す数値は、温度、相対湿度、塗布量、接着部材の構成等により変化します。



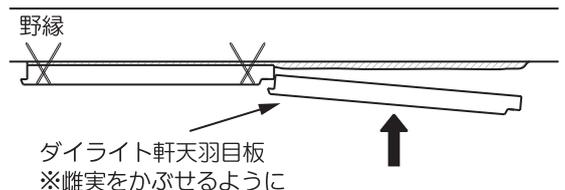
#### 接着剤塗布



- 必ずダイライト軒天羽目板専用接着剤**を使用してください。
- 接着剤はすべての野縁に塗布してください。

#### ③軒天材の張り付け

- 接着剤塗布後、ダイライト軒天羽目板の雄実側を先に施工し、**雌実側をかぶせる**ようにして、位置を合わせながら軽く仮押さえしてください。
- 雌実をかぶせず、離れた位置から寄せるように位置合わせをした場合、接着剤が実部分からはみ出し、化粧面が汚れる恐れがあります。
- あいじゃくり実には若干調整代があります。数枚施工ごとに位置を確認し、送り量を調整してください。



- !** ダイライト軒天羽目板へ接着剤が付着した場合、布などで接着剤の大部分を取り除いた後、エタノールで拭き取ってください。

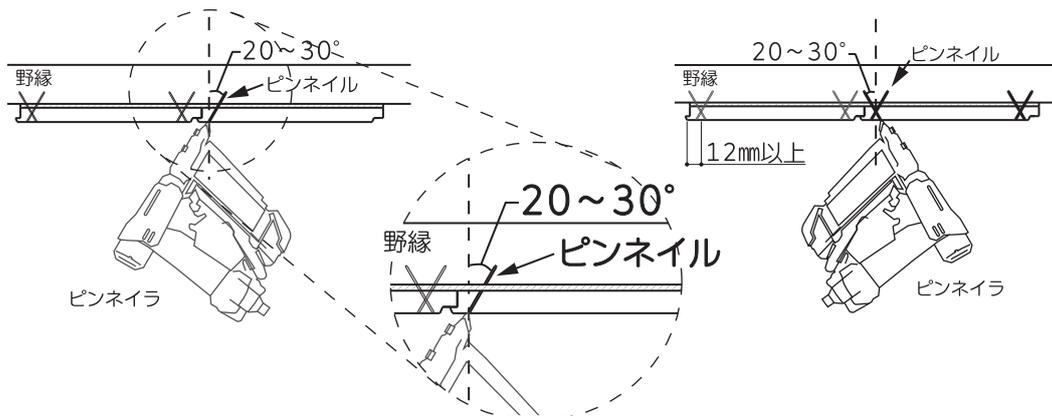
# ダイライト軒天羽目板

## 施工方法

木下地の場合(準耐火構造にしない)

### ④軒天材の留付け

- 位置を確認したら、**接着剤を押しつぶすように**、下地位置を手で押さえて、**ピンネイル(φ0.6×L35mm以上)**で野縁に留付けてください。
- **ピンネイルは1箇所あたり2本打ちとし、製品幅に対して2箇所**、軒の出方向は野縁に合わせて**303mm以下**として下さい。また、**ピンネイルの打込角度は20~30°**で、**クロス打ち**してして下さい。



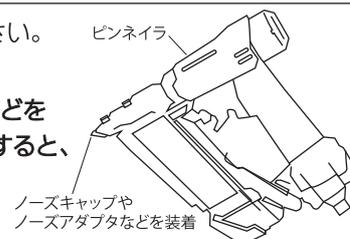
- ピンネイルは、軒天材に対して、垂直(打込角度0°)に打ち込まないでください。



- 留め付けの際は、くぎ頭がめり込みすぎないように注意してください。
- めり込み過ぎた場合は、近くに増し打ちしてください。



- マーキングする場合は、マーキング跡が残らないように工夫してください。施工後に消せない可能性があります。
- **ピンネイルで施工する際は、先端にノーズキャップやノーズアダプタなどを使用してください。ノーズキャップ・ノーズアダプタがない状態で施工すると、表面シートの破れや打痕により、仕上がりが悪くなる場合があります。**
- 留め付けのへりあき寸法は12mm以上確保してください。
- 温湿度変化により野縁とダイライト軒天羽目板に寸法変化が起こる可能性があります。収縮側に動くと目隙が発生し、伸長側に動くと突合せがきつくなり波が打っているように見えることがあります。



# ダイライト軒天羽目板

## 施工方法

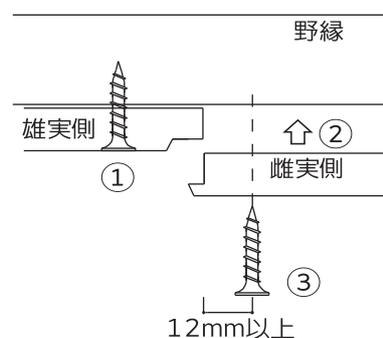
木下地の場合 (準耐火構造にしない)

### 3-2. 軒天材の留付け【リングネイル・カラービス】の場合

- 雄実側を先に施工して、雌実をかぶせるようにして張り進めてください。  
逆の順序で施工すると、ビス打ち時に板が浮き上がり実が破損する恐れがあります。
- あいじゃくり実には若干の調整代があります。数枚施工ごとに位置を確認し、送り量を調整してください。

木製野縁の場合

- 留付け材 連結リングネイル(P16参照)  
木下地用カラービス(P16参照)
- 材質 ステンレス製
- サイズ リングネイル:  $\phi 2.2 \times$ 長さ40mm  
カラービス:  $\phi 3.8 \times$ 長さ41mm
- 間隔 製品幅に対し2本打ち



• 刃つきのねじ (フレキビス) は使用しないでください。



- 留め付けの際は、くぎ頭がめり込みすぎないように注意してください。
- めり込み過ぎた場合は、近くに増し打ちしてください。



- マーキングする場合は、マーキング跡が残らないように工夫してください。施工後に消せない可能性があります。
- 留め付けのへりあき寸法は12mm以上確保してください。ダイライト軒天羽目板が割れる恐れがあります。

温湿度変化により野縁とダイライト軒天羽目板に寸法変化が起こる可能性があります。収縮側に動く  
と目隙が発生し、伸長側に動くと突合せがきつくなり波が打っているように見えることがあります。

# ダイライト軒天羽目板

## 施工方法

### 4. コーキング施工

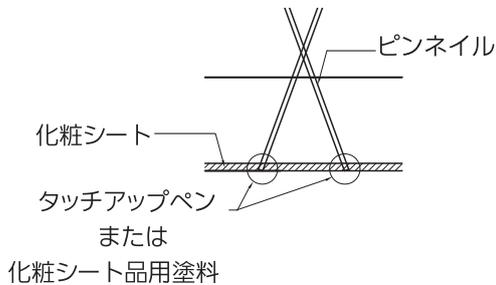
コーキングは以下の要領で施工してください。

- 水が廻り込む恐れのある場合は、軒先・軒元部分へコーキング材を施工してください。
- コーキング材は市販品の外装用を使用し、コーキング材メーカーの標準施工法に従ってください。

### 5. 補修方法

#### ■接着剤+ピンネイルの場合

- ダイライト軒天羽目板へダイライト軒天羽目板専用接着剤が付着した場合は、布などで接着剤の大部分を取り除いた後、エタノールで拭き取ってください。
- ピンネイルの打込部分が目立つ場合は、タッチアップペンまたは化粧シート品用塗料で補修してください。化粧面に残った塗料は、乾く前に布などで拭き取ってください。



#### ■タッチアップペン



- 使用前、キャップを閉めたまま上下によく振ってください。
- ペンを下向きにして、紙などの上でインクがにじみ出るまで
- ペン先を数回押し当ててから使用してください。

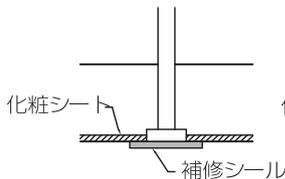
#### ■リングネイル・カラービスの場合

- くぎ頭またはねじ頭の補修は、補修シールを使用してください。  
(頭径が大きく目立つ場合や、めり込みが大きい場合は、必要に応じてパテ埋めしてください)
- パテは必ず市販品の外装用を使用し、パテメーカーの標準施工法に従ってください。



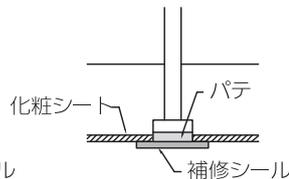
- 補修シールを貼る際には、粉塵や汚れを取り除いてから行ってください。
- また、シール外周部をしっかり押えてダイライト軒天羽目板に密着させてください。
- 補修シールが剥がれる原因となります。

[ 1 ] リングくぎ

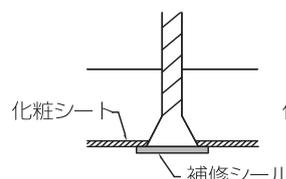


[ 2 ] リングくぎ

(めり込みが大きい場合)

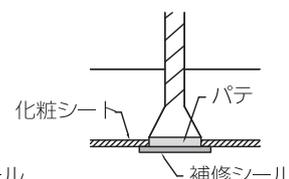


[ 3 ] ねじ



[ 4 ] ねじ

(めり込みが大きい場合)



### 6. 清掃方法

- 施工完了後に、ダイライト軒天羽目板の表面を掃除してください。



- 掃除する際は、強くこすったり、水洗いはしないでください。

# ダイライト軒天羽目板

## 施工方法

### ■ダイライト軒天羽目板 品番・サイズ表

色柄	品番	サイズ・基本重量	入数
<クリアベージュ柄>	EQ1501-1MJ	厚さ 12mm 有効幅 151.5mm 長さ 1,820mm 重量 約2kg	12枚/梱 約26kg
<ライトオーカー柄>	EQ1501-1MA		
<ティーブラウン柄>	EQ1501-1MT		
<トープグレー柄>	EQ1501-1MG		
<ダルブラウン柄>	EQ1501-1MW		
<オフブラック色>	EQ1501-1MK		

### ■補修部材 品番表

補修部材	品番	容量・枚数	入数
化粧シート品用塗料 100g	EQ1391-2■■■	100g/本	1本/梱
化粧シート品用塗料 500g	EQ1391-3■■■	500g/本	1本/梱
タッチアップペン	EQ1392-1■■■	13ml/本	1本/梱
補修シール	EQ1393-1■■■ ティーブラウンMTN※	528枚/梱	3シート/梱 (176枚/シート) 下地間隔200mmで 製品約25枚分

※補修シールのティーブラウン色はダイライト軒天45、30用補修シールとは色が異なりますので、混用しないでください。

※■■■:MJ<クリアベージュ色>、MA<ライトオーカー色>、MT<ティーブラウン色>、MG<トープグレー色>、MW<ダルブラウン色>、MK<オフブラック色>

### ■施工部材 品番表

施工部材	品番	容量・サイズ	入数
ダイライト軒天羽目板専用接着剤 2本入	EQ1398-02	333ml/本	2本/梱 下地間隔200mmで 製品約12枚分
ダイライト軒天羽目板専用接着剤 10本入	EQ1398-10		10本/梱 下地間隔200mmで 製品約60枚分
連結リングネイル	EQ1390-1■■■	φ2.2×40mm	2巻/梱 (200本/巻) 下地間隔200mmで 製品約20枚分
鋼製下地用カラービス	EQ1394-1■■■	φ3.5×25mm ラツパ頭	1,000本/梱 下地間隔303mmで 製品約70枚分
木下地用カラービス	EQ1395-1■■■	φ3.8×41mm ラツパ頭	500本/梱 下地間隔200mmで 製品約25枚分

※■■■:MJ<クリアベージュ色>、MA<ライトオーカー色>、MT<ティーブラウン色>、MG<トープグレー色>、MW<ダルブラウン色>、MK<オフブラック色>

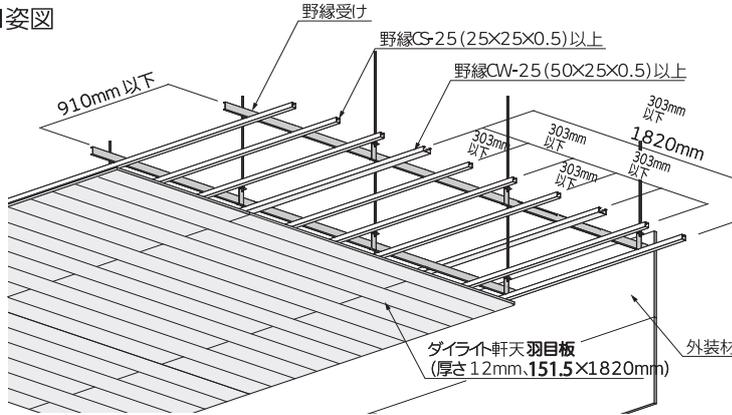
# ダイライト軒天羽目板

## 施工方法

### 鋼製下地の場合

ダイライト軒天羽目板を鋼製下地へ施工する場合は、以下の施工方法に従ってください。  
鋼製下地での準耐火構造認定は取得していません。イ準耐火には使用できませんのでご注意ください。

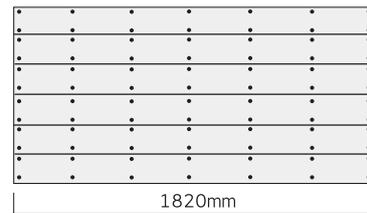
#### ■ 姿図



	不燃材料認定番号
ダイライト軒天羽目板	NM-4133

#### ■ ビス打ち図

野縁ピッチでビス固定



#### ■ 材料

野縁		ビス
CS-25 25×25×0.5mm	CW-25 50×25×0.5mm	ステンレス製 タッピンネジ φ3.5×L25mm以上

鋼製下地用カラービス	品番	サイズ	入数
〈クリアベージュ色〉	EQ1394-1MJ	φ3.5×25mm ラッパ頭	1,000本/梱 下地間隔303mmで 製品約70枚分
〈ライトオーカー色〉	EQ1394-1MA		
〈ティープラウン色〉	EQ1394-1MT		
〈トープグレー色〉	EQ1394-1MG		
〈ダルブラウン色〉	EQ1394-1MW		
〈オフブラック色〉	EQ1394-1MK		

耐風圧仕様にする場合は、鋼製下地メーカーの耐風圧仕様に準じてください。

#### ■ 施工要領

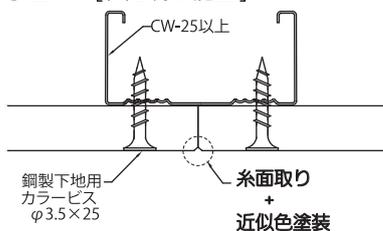
- 野縁受けを 910mm 以下のピッチで配置する。
- 鋼製野縁を 303mm 以下のピッチで配置する。このとき、ダイライト軒天羽目板の目地部はダブルサイズ (50×25×0.5mm) 以上とする。  
鋼製野縁下面に合せてレベル出しを行う。
- ダイライト軒天羽目板の短辺方向 (切り放し小口の方向) と野縁方向を合せて位置決めし、製品幅 151.5mm に対し 2 本以下で  
鋼製野縁ごとビス打ちする。着色等の現場加工は、施工前に実施しておく。
- ビス頭をパテ、化粧シート品用塗料、補修シールで補修する。(タッチアップペンで補修すると目立つ場合がありますので、事前に端材で確認の上、ご使用ください)



- ダイライト軒天羽目板を製品サイズのまま施工する場合、製品には多少の寸法誤差がありますので現場の状況によっては、たて継ぎの際に突付け納めの短辺目地に若干の隙間ができた、目透かし納めの隙間量がばらついて見える場合があります。目地のズレを確認・修正しながら張り進めてください。
- たて継ぎ部は突き付け納めとしてください。短辺は糸面取り、近似色塗装となっております。
- ダイライト軒天羽目板は一枚一枚色柄に特有の変化があります。仮並べなどを行い、色柄のバランスをご確認のうえ、施工してください。
- 現場の環境によっては「ラスマーク」が発生する可能性があります。
- 温湿度により鋼製下地とダイライト軒天羽目板に寸法変化が起こる可能性があります。収縮側に動くと目隙が発生し、伸縮側に動くと突合せがきつくなり波が打っているように見えることがあります。

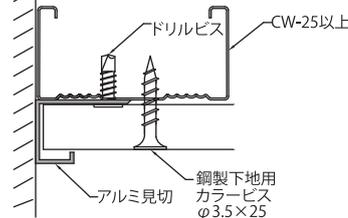
#### ■ 短辺継手図

##### [突き付け施工]



※縦継ぎの際のズレは短辺目地中で調整しながら施工してください。

##### [見切施工]



#### ■ 注意事項

- ！耐風圧仕様にする場合の鋼製下地は、鋼製下地メーカーの耐風圧仕様から選択し、設計耐風圧表から適切なビスピッチを選択してください。

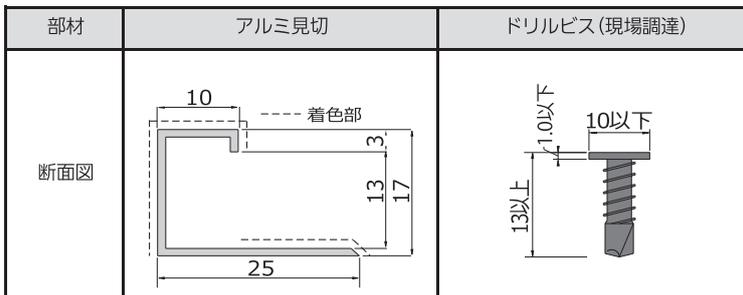
#### ■ 設計耐風圧表 (建築用鋼製下地)

設計耐風圧 [N/m <sup>2</sup> ]		野縁間隔 [mm]				
		@202	@228	@260	@303	@303<
板幅 方向に	カラービス2本留め	10787	8331	6406	4717	×

# ダイライト軒天施工部材

## 施工方法

### ■材料



**!** ダイライト軒天施工部材を木製下地へ施工した場合、準耐火構造認定は使用できませんので、ご注意ください。

アルミ見切	品番	サイズ	入数
<クリアベージュ色>	EQ1397-1MJ	2,730mm	1本/梱
<ライトオーカー色>	EQ1397-1MA	2,730mm	1本/梱
<ティーブラウン色>	EQ1397-1MT	2,730mm	1本/梱
<トープグレー色>	EQ1397-1MG	2,730mm	1本/梱
<ダブルブラウン色>	EQ1397-1MW	2,730mm	1本/梱
<オフブラック色>	EQ1397-1MK	2,730mm	1本/梱

### ■施工要領

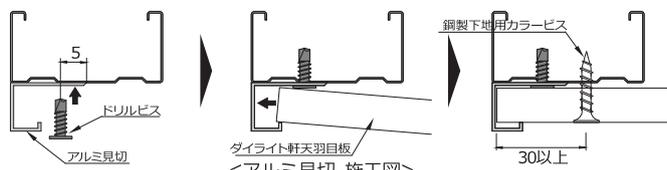
**!** アルミ見切を使用する箇所の野縁は、ダブルサイズ以上としてください。  
 ・ 鋼製野縁: 50×25×0.5mm以上      ・ 木製野縁: 見付60×30mm以上

**!** 軒天材をカラービスで留付ける際は、アルミ見切と干渉しないようにしてください。

#### ●アルミ見切

- ドリルビスで野縁に910mm以下の間隔で留付け、軒天材を施工してください。

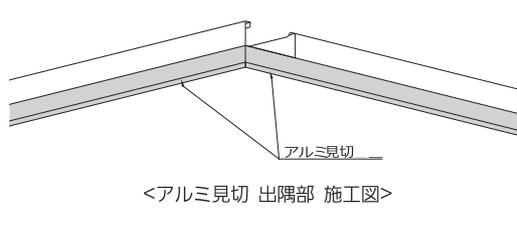
**!** ドリルビスは、頭高さの低いものを使用してください。  
 頭高さの高いものを使用した場合、軒天材がビス頭と干渉し見切りに差し込めない場合があります。



#### ●部材取り合い部

- 出隅部は、見切端部を45度に丸鋸でカットし、留め加工で納めてください。

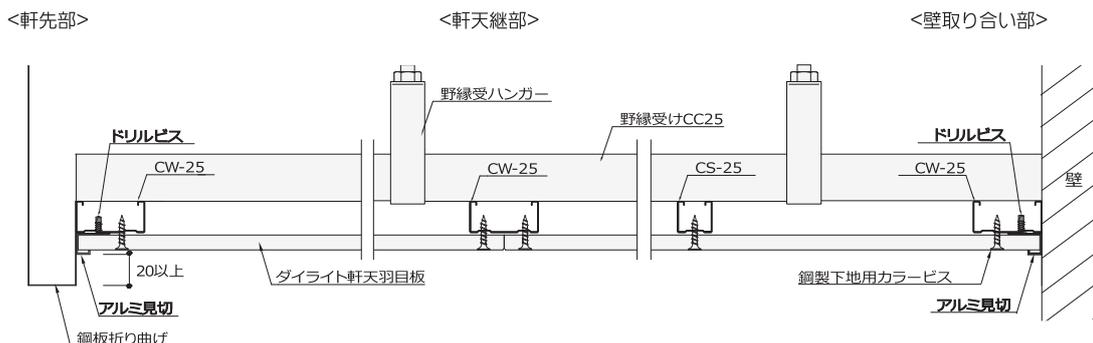
**!** ダイライト軒天施工部材の切断面は、バリなどが出ることがありますので、バリ取りを行ってから施工してください。



### ■納まり図

#### ●軒先部・軒天継部・壁取り合い部 (鋼製下地の場合)

- 軒先部は、見切だけで納めず、金属折板や水切り、破風板などと併せて納めてください。



❗ **ダイライト軒天羽目板は表面に特殊加工を施しています。**

掃除する場合は次のことをご守りください。

- 水洗い・高圧ジェット洗浄・スチーム洗浄しないでください。

表面にシミができる場合があります。

⚠ **フックなどをダイライト軒天羽目板に直接留め付けることはできません。**

建物引渡し後にフックなどを取り付けたい場合は、施工会社にご相談ください。

不用意に取り付けると落下する可能性があります。

その他、製品の不具合についても、施工会社にご相談ください。

### 製品の仕様や施工方法に関するお問い合わせは

#### お客様センター

 **0120-787-505**

受付時間：平日 9:00 ~ 17:00  
(土・日・祝日・年末年始・お盆は休みとなります。)

お問い合わせ、カタログ請求は、Webでも！

DAIKEN のホームページのご案内



<https://www.daiken.jp/contact/>

メールで写真も送ることができます。

### ユーザー登録サービス

商品を未永く安全に使用していただくために、ユーザー登録をお願いいたします。

ユーザー登録はこちらから(無料)

<https://service.daiken.jp/user/>



\*ご登録いただいたお客様情報は、製品安全に関する大切なお知らせや暮らしに役立つ情報をDAIKENからご連絡する際に、ご利用させていただきます。